

談話理解能力と英文読解

小野 尚美

Discourse Competence  
and Reading Comprehension in English

Naomi ONO

*Seikei Review of English Studies*, No.23  
Faculty of Humanities, Seikei University  
March, 2019

成蹊英語英文学研究  
第23号抜刷  
2019

## 談話理解能力と英文読解

小野 尚美

英語による読みの指導では、読み手である学習者の読解能力を高めるために、単語レベルでは英単語の正しい発音、意味理解、正確な綴りの理解、文レベルでは、正しい文構造と文と文の結束性の理解、パラグラフレベルでは話題文、支持文、結論文の構成と談話の首尾一貫性の理解が指導のポイントとなってくる。英語を外国語として学び日本語を主要言語とする学習者（ここではあえてこのように定義する）には、英単語や英文構造の理解だけでなく、英語と日本語の談話レベルの違いについて理解させることも大切である。「談話」(discourse)とは、会話や文章において、文よりも上のレベルのまとまりのある言語単位であり、会話や文章を構成する複数の文が首尾一貫した表現 (coherence) を伴いながら次々と連続してつながったものを意味している (西山, 1999; 橋内, 2018)。そして、その複数の文が首尾一貫してつながっている文はある特定状況を背景として特定の話し手または書き手が何らかの意味を表現している (西山, 1999)。この首尾一貫性は談話を特徴づける要素である。英語で書かれたテキストの場合、話題文 (topic sentence) があり、それを具体的に説明する支持文 (supporting sentences) があり、さらに結論文 (concluding sentence) でしめくくり、パラグラフとしてまとまっているものを首尾一貫性があるとみなす。

良いとされている談話パターンは、それぞれの言語によって異なることはよく知られている。談話の様々な型に関するKaplan (1966) の分類は有名である。Kaplan (1966) は、外国人に英語の読み書きの授業を行った経験から、アメリカ人学習者と外国人学習者とは思考パターンが異なるので、おのずと教え方も違ってくるとした上で、英語系言語を話す学習者の思考パターンは話題について例を示しながら (支持文で述べる) 明確に伝えていくといった直線型で、東洋系言語を話す学生の思考パターンは前置きや間接的な話題から入っていく渦巻型であると特徴づけている (Kaplan, 1966)。このように考えると、日本語を主要言語とする英語学習者が十分な単語力と文法知識を

駆使して英語で発信したとしても、当然日本語と英語による談話パターンは異なるため、英語学習者の英語による談話パターンについての理解が不十分だと、メッセージの伝達と受信が難しくなるであろう。

談話を特徴づけるもう一つの要素としてcohesion（文と文の結束性）がある。Cohesionとは、テキストの中の文がそれぞれ意味的に関連を持っていることを表す（Halliday & Hasan, 2013）。文と文を意味的につなげるもの（connectors）には、定冠詞、人称代名詞、指示代名詞がある。以下のテキストの例を見てみよう（下線は筆者による）。

### Fairy Tales and Love

In fairy tales, true love always wins. In a fairy tale *Sleeping Beauty*, an evil witch causes a beautiful princess to fall into a deep sleep. A beautiful princess must stay asleep until a handsome prince finds a beautiful princess and kisses a beautiful princess. A handsome prince finds a beautiful princess and wakes a beautiful princess up with a kiss. A beautiful princess and a handsome prince live happily ever after. A story shows that love is always possible. (Boardman, 2008, p.83)

このテキストでは、適切な場所に定冠詞、人称代名詞、指示代名詞が使われていないため、「美しい王女」が7人で、「ハンサムな王子」が3人登場していることになってしまった。これではこのテキストの意味は読み手に伝わらない。以下のように修正すると、わかりやすくなる（下線は筆者による）。

### Fairy Tales and Love (修正版)

In fairy tales, true love always wins. For example in the fairy tale *Sleeping Beauty*, an evil witch causes a beautiful princess to fall into a deep sleep. The beautiful princess must stay asleep until a handsome prince finds her and kisses her. At last, a handsome prince finds the beautiful princess and wakes her up with a kiss. In the end, they live happily ever after. In short, this story shows that love is always possible. (Boardman, 2008, p.85)

第一文 “In fairy tales, true love always wins.” は、このテキストの話題文である。その後、時間軸に沿って話の内容が書かれ、文と文は定冠詞、人称代名詞や指示代名詞で結びつけられる。そして “In short” という句を入れることにより、その句に続く文がこのテキストの結論文であることを示す。適切なつながりのことばを使うことでテキストは理解されやすくなる。

次のテキストは、2016年に制定された「山の日」について書かれているものである。このテキストを構成する文と文の結束性について考えてみよう。なお、テキストの難易度は、Flesch Reading Ease score: 84.5 (easy to read)、Flesch-Kincaid Grade Level: 3.3となっており、比較的平易な文で、米国の小学校三年生レベルと考えてよい。

### Mountain Day (August 11) - (修正前のテキスト)

Mountain Day is the16<sup>th</sup> national holiday in Japan. On this day people here like to travel to the mountains. We pay more attention to the trees, flowers, and birds of the mountains, and this helps us to appreciate nature more. The year 2016 is the first year when this holiday was celebrated.

第二文に “On this day” とあり、この表現が第一文と意味的に結びつけている。また第三文の “the mountains” が第二文にもあり、ここでもこの二つの文は結びつきがある。ところが第四文になるとどうであろうか。急に “The year 2016 is the first year when this holiday was celebrated.” となっており、前の文とは定冠詞、所有代名詞や名詞などのつながりのことばがない。このテキストが読みやすいものであるかどうかを調べるために、テキスト分析ソフトで文と文の結束性について測ってみる。テキスト分析ソフト Latent Semantic Analysis @ CU Boulder を使って Sentence to Sentence Coherence Comparison を調べてみたところ以下の結果が出た。

#### 文と文の結束性分析結果 - 1

① Mountain Day is the16<sup>th</sup> national holiday in Japan.

0.39

② On this day people here like to travel to the mountains.

0.32

- ③ We pay more attention to the trees, flowers, and birds of the mountains, and this helps us to appreciate nature more.

0.00

- ④ The year 2016 was the first year when this holiday was celebrated.

①と②の文の結束性は0.39、②と③の文の結束性は0.32、③と④の結束性は0.00と出た。この四つの文の間の結束性の平均は0.24で、標準偏差は0.17であった。この数字は何を表すのだろうか。③と④の文の結束性が0.00ということは、文と文の結束という点で結びつきがないことを意味する。三番目の文と四番目の文をつなぐことがないため、この第三文から第四文にかけて読むときに読み手は意味的な結びつきがないと感じる可能性がある。意味の点からも考えてみよう。①で「山の日」は第16番目の休日であるとあり、②の冒頭“On this day”が前文の「山の日」と意味的に結びついている。さらに③の“We pay more attention to the trees, flowers, and birds of the mountains,~”で「山の木々、花々、鳥たち」という表現が②の“people here like to travel to the mountains”の“the mountains”と意味的に結びつく。ところが、やはり第四文では、単語や句で前の文とのつながりを表す語はない。文の最後にある“this holiday”は第一文の“the 16<sup>th</sup> national holiday”と関係してくるが、第一文と第四文なので、意味的つながりという点で遠い位置関係にあるといえる。この「山の日」のテキストの場合そこに含まれている文の数が少ないので、読み手は第三文と第四文の希薄な結びつきを補って理解することができるであろう。しかし、多くの文を含むテキストで、結びつきが希薄な文が幾つかあると、読み手の理解を難しくする可能性が高くなる。

文と文のつながりを考慮して、以下のようにこのテキストを修正し、テキスト分析ソフトで測定してみる。

### Mountain Day (August 11) - (修正テキスト)

Mountain Day is the 16<sup>th</sup> national holiday in Japan, and was first celebrated in the year 2016. On this day people here like to travel to the mountains. We pay greater attention to the trees, flowers, and

birds of the mountains, and this helps us to appreciate the wonders of nature more deeply.

文と文の結束性分析結果 - 2

① Mountain Day is the 16<sup>th</sup> national holiday in Japan, and was first celebrated in the year 2016.

0.35

② On this day people here like to travel to the mountains.

0.31

③ We pay greater attention to the trees, flowers, and birds of the mountains, and this helps us to appreciate the wonders of nature more deeply.

修正前のテキストの中の第一文と第四文を意味的に結びつけて、文の数は三つとなった。その結果、修正後のテキストでは、文と文につながりが出てきた。①と②の結束性は0.35、②と③の結束性は0.31で、文と文の結束性の平均は0.33、標準偏差は0.02となった。この修正版の場合、読み手は文と文の意味関係を理解して読むことが容易になる。ここでは、修正前のテキストでは幾分意味的に関係があるが位置的に遠い第一文と第四文をまとめて第一文としてある。第二文と第三文は修正前と同じように意味的につながっている。このように書き換えることで、テキスト分析ソフトの結果に出ているように、また意味的にも文と文の結束性のあるテキストになった。

ESL/EFL読解理論で、読解とは読み手とテキストのインタラクションであると説明されている。読み手の英単語の知識、文法知識を含む読解能力の面だけでなく、テキスト要因も学習者の読解に影響を及ぼす。英語学習者は、様々なタイプのテキストを読み慣れる必要があるが、読み手の英文読解能力を養成するためには彼らにとって理解しやすいテキストを読ませることも重要である。そのようなテキストを作成するために、テキストの中の文と文の結びつきがあるかどうかに関心を持って注意を払う必要がある。

談話分析とテキスト読解に関する多くの研究では、テキストの構成が読解に影響を与えていることが明らかになっている。1980年代のESL読解研究では、社会的、文化的題材に関する内容についての知識スキーマ (content schema) とともに、テキストの構成またはレトリックに関するテキスト形

式についての形式スキーマ (formal schema) が読解へ影響することに関する調査が盛んに行われた。例えば、Carrell (1984) は、大学のESL学習者を被験者として典型的な物語の構成についてのstory schemaに沿って書かれているテキストとそうでないテキストでは被験者の内容についての記憶の量が異なることから、story schemaに沿って書かれたテキストの方が被験者の読解を助けるという示唆を得ている。読み手の意識の中には、既に物語の典型的な構成についての知識が存在しているからである。また、物語に沿って文と文が意味的につながっているテキストは理解しやすい。第二言語において読解とライティングの両方でformal schemaを教えることが効果的であるというOstler & Kaplan (1982) による報告もある。特に説明文の場合は、話題文、支持文、結論文というテキスト構造が明確であるため、テキスト構成について教えることによって読解能力を養成することができると考えられている (Ostler & Kaplan, 1982; Grabe, 2002; Zarrati, et al, 2014)。

冒頭で説明したように学習者に読みの指導をする際には、上記で述べてきた文と文の結びつき (cohesion) だけでなく、パラグラフの中の話題文、支持文、結論文の首尾一貫性 (coherence) について指導する必要もある。もう一度修正前のテキストを見てみよう。

### Mountain Day (August 11) - (修正前のテキスト)

Mountain Day is the 16<sup>th</sup> national holiday in Japan. On this day people here like to travel to the mountains. We pay more attention to the trees, flowers, and birds of the mountains, and this helps us to appreciate nature more. The year 2016 is the first year when this holiday was celebrated.

一般的なパラグラフは五、六文から構成されるといわれているが、そう考えるとこのテキストはパラグラフとしては短いものであるため、内容として含まれている情報は少ない。テキスト分析ソフトでは、確かに最後の第三文は第四文との結びつき (cohesion) が0.00であるが、パラグラフの首尾一貫性 (coherence) という観点から読んでみると、最初の文が話題文となり、第四文がこのパラグラフの内容を締めくくる文となっていて、このパラグラフがある一つのメッセージを伝えるための役割を果たしているとも考えられ

る。実際の授業で学習者に談話構成について教えるときには、このように、cohesionだけでなくcoherenceの視点からもテキスト理解のための指導をしなければならないことを付記しておく。

## 引用文献

- 西山祐司. (1999). 「1 語用論の基礎概念」『談話と文脈 岩波講座言語の科学7』田窪則行、西山祐司、三藤博、亀山恵、片桐恭弘 (pp.1-54). 東京: 岩波書店.
- 橋内 武. (2018). 『ディスコース 談話の織りなす世界』東京: くろしお出版.
- Boardman, C.A. (2008). *Writing to Communicate 1 Paragraphs*. New York: Pearson Education, Inc.
- Carrell, P.L. (1984). Evidence of a Formal Schema in Second Language Comprehension. *Language Learning*, 34(2), 87-112.
- Grabe, B. (2002). *Using Discourse Patterns to Improve Reading Comprehension*. JALT 2002 Shizuoka Conference Proceedings.
- Halliday, M.A.K. & Hasan R. (2013). *Cohesion in English*. New York: Routledge.
- Kaplan, R. B. (1966). "Cultural Thought Patterns in Inter-cultural Education." *Language Learning*, Vol. 16(1-2), 1-20.
- Latent Semantic Analysis @ CU Boulder. "Sentence to Sentence Coherence Comparison." <http://lsa.colorado.edu/>
- Ostler, S. E. & Kaplan, R.B. (1982). *Contrastive rhetoric revisited*. Paper presented at the 16<sup>th</sup> Annual TESOL Convention, Honolulu, Hawaii, May, 1982.
- Zarrati,Z., Nambiar, R.M.K., & Maasum, T, N. R. T.M. (2014). The Importance of Text Structure Awareness in Promoting Strategic Reading among EFL Readers. *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 118, 537-544.

本稿は、筆者が2017年度-2018年度に受けた成蹊大学研究助成費の成果物の一部である。